

October 16, 2019

【前日の為替概況】ブレグジット合意観測でポンドドル 1.2800ドルまで上昇、ドル円も 108.90 円へ

15日のニューヨーク外国為替市場でポンドは全面高。英国の欧州連合（EU）離脱（ブレグジット）問題を担当するバルニエ EU 首席交渉官が「今週中に離脱案で合意する可能性がある」と発言すると全般ポンド買いが先行。関係筋の話として「英国と EU はブレグジット案を巡り合意に近づいており、16日朝までにまとまる可能性がある」と報じられると、ポンド買いが加速した。ポンドドルは 1.2800 ドル、ポンド円は 139.32 円、ユーロポンドは 0.8626 ポンドまでポンド高に推移した。市場では「合意案はまだ完成しておらず、土壇場で政治的または技術的な問題に見舞われる可能性はあるものの、双方は離脱協定案の文言で合意に近づいている」との指摘があった。

ドル円は 5 日続伸。終値は 108.86 円と前営業日 NY 終値 (108.40 円) と比べて 46 銭程度のドル高水準。英国と EU が離脱合意を巡り草案の完成に近づいているとの観測を背景に、投資家のリスク選好が強まった。一部主要企業の好決算が意識されてダウ平均が一時 330 ドル超上昇し、ナイト・セッションの日経平均先物が 370 円上げると円売り・ドル買いが活発化し、108.90 円まで上昇した。

欧州の取引時間帯には「中国は米国に 500 億ドル相当の輸入品に対する関税撤回を求めている」との報道が伝わり、一時 108.16 円と日通し安値を付ける場面があった。トランプ米大統領は「中国の対応は良好。銀行に関する第 2 段階を想定している」と述べている。

ユーロドルは小反発。終値は 1.1033 ドルと前営業日 NY 終値 (1.1027 ドル) と比べて 0.0006 ドル程度のユーロ高水準。ユーロポンドの下落につれた売りが先行し一時 1.0991 ドルと日通し安値を付けたものの、売り一巡後は買い戻しが優勢となり、ポンドドルの急伸をきっかけにユーロ買い・ドル売りが入ったほか、ユーロ円の上昇につれた買いが入り 1.1045 ドル付近まで値を上げた。

ユーロ円は反発。終値は 120.10 円と前営業日 NY 終値 (119.53 円) と比べて 57 銭程度のユーロ高水準。英国と EU がブレグジット案の合意に近づき、週内決着への期待が高まるとポンド円が急伸、米国株相場の上昇を背景にリスク・オンの流れが強まったことも追い風となり、120.23 円と日通し高値を更新した。

【本日の東京為替見通し】ドル円、続伸見通しも米中通商部分合意に関する報道に要警戒か

本日の東京市場のドル円は、ニューヨーク市場のリスク選好地合いを受けて堅調推移が予想される中、引き続き米中通商協議の「第 1 段階」としての「部分合意」に関連する要人発言などのヘッドラインに警戒する展開が予想される。

「第 1 段階」の米中通商「部分合意」では、米国側は、中国が米国産農産品（400-500 億ドル）を購入する、と表明しているものの、昨日は、中国関係筋の話として、「中国は米国に 500 億ドル相当の輸入品に対する関税撤回を求めている」との報道が伝わっており、本日も関連する続報に要警戒となる。

ドル円のテクニカル分析では、10月3日の安値 106.48 円を起点に陽線新高値 6 手を数えており、上昇トレンドの可能性が高まりつつある。しかしながら、9月18日の高値 108.48 円から 10月15日の高値 108.90 円と高値更新したものの、相対力指数 (RSI) は 9月18日の 66.06 から 10月15日の 65.61 まで高値を更新できずに低下していることで、上昇エネルギーの枯渇を示唆する「逆行現象 (ダイバージェンス)」となっており要警戒か。上値の攻防の分岐点は、200日移動平均線の 109.07 円、8月1日の高値 109.32 円となる。また、9月日銀短観での大企業・製造業の 2019 年度想定為替レートが 108.68 円だったことで、本邦輸出企業からのドル売りオーダーが 108.90 円から 109.50 円まで控えている。

「第 1 段階」としての米中通商「部分合意」は、約 5 週間後の 11 月 16-17 日の APEC 首脳会議に併せて開催される米中首脳会談で、トランプ米大統領と習中国国家主席が署名する見込みとなっている。中国サイドは、「第 1 段階」の合意署名前にさらなる交渉を要請しており、今週は米中次官級通商協議、来週は、電話での米中閣僚級通商協議が開催される予定、と報じられている。

リスクシナリオとしては、昨年 12 月 1 日に G20 首脳会議に併せて開催された米中首脳会談で最終合意に到達しなかったことで、ダウ平均がクリスマスにかけて 4000 ドル程度下落したリスク回避相場の再現となる。米中首脳会談では、中国側が全ての関税の撤廃を要請したものの、米国側は、構造改革の交渉開始などを盾にして、関税率の 10% から 25% への引き上げを留保しただけだった。

トランプ米大統領は、「今回の合意内容が文書化されるまで署名しない。今回の合意が今後数週間で白紙に戻るとは考えていない」と述べつつも、「可能性はある」と警告している。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

特になし

<海外>

- 10:00 ◎ 韓国中銀、政策金利発表（予想：1.25%に引き下げ）
- 17:30 ◎ 9月英CPI（予想：前月比0.2%/前年比1.8%）
 - ◎ CPIコア指数（予想：前年比1.7%）
 - ◇ 小売物価指数（RPI、予想：前月比▲0.1%/前年比2.6%）
- 17:30 ◎ 9月英卸売物価指数（PPI、食品とエネルギーを除くコア指数、予想：前年比1.9%）
- 18:00 ◇ 8月ユーロ圏貿易収支（季調済、予想：180億ユーロの黒字）
 - ユーロ圏貿易収支（季調前、予想：175億ユーロの黒字）
- 18:00 ☆ 9月ユーロ圏消費者物価指数（HICP）改定値（予想：前年比0.9%）
- 18:00 ☆ 9月ユーロ圏HICPコア改定値（予想：前年比1.0%）
- 20:00 ◇ MBA住宅ローン申請指数
- 20:00 ◇ 8月南アフリカ小売売上高（予想：前年同月比1.5%）
- 21:30 ◎ クノット・オランダ中銀総裁、講演
- 21:30 ◇ 8月対カナダ証券投資
- 21:30 ◎ 9月カナダCPI（予想：前月比▲0.2%/前年比2.1%）
- 21:30 ☆ 9月米小売売上高（予想：前月比0.3%/自動車を除く前月比0.2%）
- 22:00 ◎ カーニー英中銀（BOE）総裁、討議に参加
- 22:00 ◇ 9月ロシア鉱工業生産（予想：前年比3.0%）
- 23:00 ◎ 10月全米ホームビルダー協会（NAHB）住宅市場指数（予想：68）
- 23:00 ◇ 8月米企業在庫（予想：前月比0.2%）
- 23:00 ◎ レーン欧州中央銀行（ECB）専務理事兼チーフ・エコノミスト、講演
- 23:45 ◎ エバンズ米シカゴ連銀総裁、講演
- 17日 02:00 ◎ バイトマン独連銀総裁、講演
- 17日 02:00 ◎ カプラン米ダラス連銀総裁、講演
- 17日 03:00 ◎ 米地区連銀経済報告（ページブック）
- 17日 04:00 ◎ ブレイナード米連邦準備理事会（FRB）理事、講演
- 17日 05:00 ◎ 8月対米証券投資動向
- 17日 06:00 ◎ ビルロワ・フランス中銀総裁、講演

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

15 日 05:17 トランプ米大統領

「もしトルコのリーダーが危険で破壊的な道を進むのなら、トルコ経済を素早く破滅させる準備ができています」

16 日 04:38

「中国の対応は良好。銀行に関する第 2 段階を想定している」

「トルコには厳しい姿勢」

15 日 09:34 黒田日銀総裁

「政策金利、少なくとも 2020 年春頃まで極めて低い長短金利を維持する」

「物価モメンタムが損なわれる恐れが高まる場合は、躊躇なく追加緩和」

「金融システムは安定維持、金融環境は極めて緩和した状態」

15 日 14:25 アルトマイヤー独経済相

「独は景気刺激政策を必要としていない」

15 日 17:36 ブラード米セントルイス連銀総裁

「FRB は会合ごとに金利を決定する」

「予想以上に急激な景気減速が進むリスクがある」

「貿易摩擦によるリスクは依然高い」

15 日 17:41 中国外務省

「第 1 段階合意に関する米政府の見解に違いはない」

15 日 20:02 カーニー英中銀(BOE)総裁

「合意なき離脱となった場合への準備はできている」

15 日 21:42 ブリハ英金融政策委員会(MPC)委員

「合意なき離脱となれば、刺激策が必要となる場合も」

「離脱が遅れれば、金利引き下げも」

15 日 22:07 国際通貨基金(IMF)

「2019 年の世界経済成長見通しを 7 月の 3.2%から 3.0%へ引き下げ」

「2020 年の世界経済成長見通しを 7 月の 3.5%から 3.4%へ引き下げ」

「2019 年の米経済成長見通しを 7 月の 2.6%から 2.4%へ、2020 年の長見通しを 2.3%から 2.1%へ引き下げ」

「2019 年の中国経済成長見通しを 7 月の 6.2%から 6.1%へ、2020 年の長見通しを 6.0%から 5.8%へ引き下げ」

「米中貿易をめぐる緊張が世界の GDP を 2020 年までに 0.8%押し下げ」

15 日 23:39 ショルツ独財務相

「直前でブレグジット合意となれば良いことだ」

「合意なき英離脱となれば、英国だけでなく全ての国に影響がある」

16 日 00:03 スタージョン SNP(スコットランド民族党)党首

「スコットランドは独立できるほど豊かだ」

「20 年にスコットランド独立を問う国民投票を実施すべき」

16 日 00:21 バラッカー・アイルランド首相

「ブレグジット交渉は進展しているが、EU サミットまでに合意できるかは不透明」

「英国と EU のギャップはまだ大きい、ここ数時間で状況は変わった」

16 日 00:27 EU 高官

「ブレグジット交渉が合意に至るという報道は時期尚早」

16 日 02:49 フォスター民主統一党(DUP)党首

「先週の英・アイルランド首脳会談後の幾つかの思惑は的外れ」

「EU 離脱が実行できるように協力する」

「もし DUP が離脱案を支持しなければ可決しないことは誰でも知っていること」

16 日 05:16

「(ジョンソン英首相との会談後)英・EU 間にはギャップがあり、更なる交渉が必要」

16 日 04:41 デイリー米サンフランシスコ連銀総裁

「FRB のインフレ目標はまだ達成されていない」

「米経済についてのニュースはとてもポジティブなもの」

「向かい風にもかかわらず今年 2 回の利下げで成長は維持された」

16 日 05:53 エルドアン・トルコ大統領

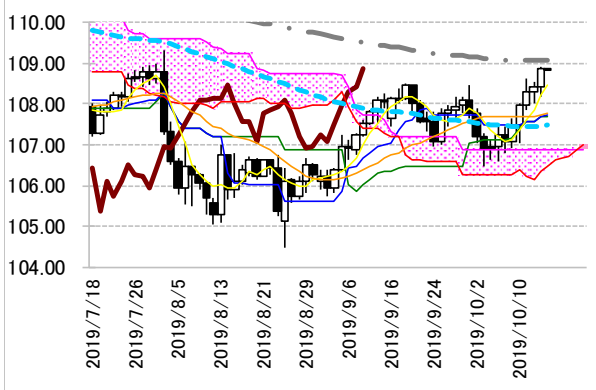
「シリア北東部での軍事作戦の目標は明らかであり、制裁を気にしていない」

「トランプ米大統領に戦闘を止めないことを伝えた」

「米戦闘機 F35 の代替は準備している。オファーはきている」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

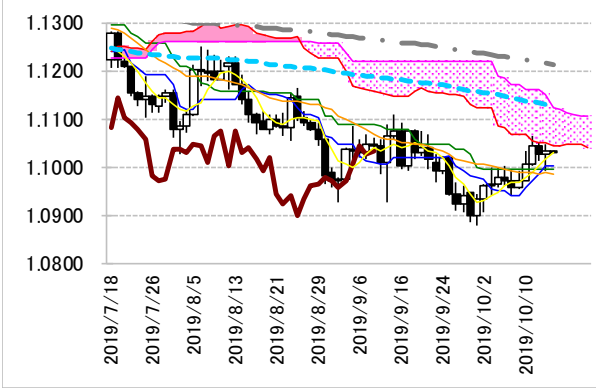


<ドル円=15日安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯した。しかし、価格が108.48円から108.90円まで高値更新したものの、相対力指数は66.06から65.61へ低下しており、逆行現象がダブル・トップの可能性を示唆していることで要警戒か。

本日は、15日安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下回れば手仕舞い。

レジスタンス1	109.32(8/1 高値)
前日終値	108.86
サポート1	108.16(10/15 安値)
サポート2	107.74(日足一目均衡表・転換線)

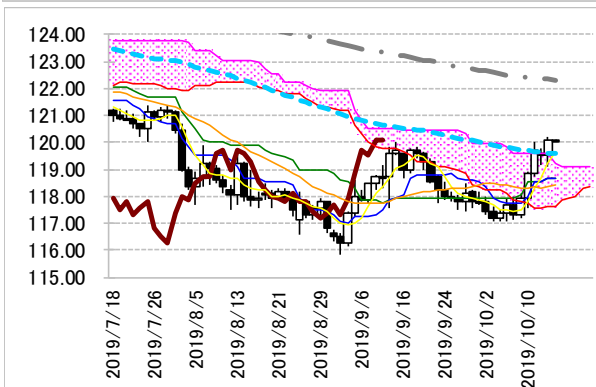


<ユーロドル=11日高値を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回っているものの、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回って引けていることで、売りシグナルが優勢な展開。雲の下限が抵抗となり、高値圏での被せ線が反落の可能性を示唆している。

本日は、11日高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1063(10/11 高値)
前日終値	1.1033
サポート1	1.0994(日足一目均衡表・基準線)

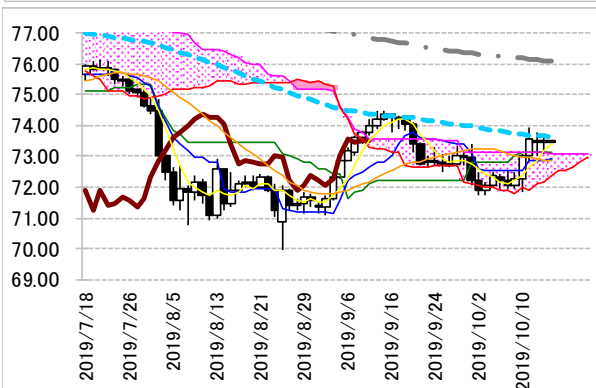


<ユーロ円=雲の上限を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線と同値だが、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。5日・21日・90日移動平均線を上抜けており、200日移動平均線をうかがう堅調推移が予想される。

本日は、雲の上限を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	121.38(7/30 高値)
前日終値	120.10
サポート1	119.21(日足一目均衡表・雲の上限)



<豪ドル円=基準線を支持に押し目買いスタンス>

小陽線引け。雲の上で引けているものの、一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回っていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。しかし、基準線や転換線を上回っていることで続伸が予想される。

本日は、基準線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	74.50(9/13 高値)
前日終値	73.51
サポート1	73.12(日足一目均衡表・基準線)

